

## 射影演算子

エネルギー、3次元運動量、スピンに対する射影演算子 (projection operator) を与えます。射影は基底ベクトル上に変換することで、射影演算子はそれを行う演算子です。

ディラック方程式の解は

$$\psi^r(x) = \omega^r(\mathbf{p}) \exp\left[-\frac{i}{\hbar} \epsilon_r p_\mu x^\mu\right] \quad (r = 1, 2, 3, 4)$$

$$\epsilon_r = +1 \quad (r = 1, 2), \quad -1 \quad (r = 3, 4)$$

と書いて、規格化定数は省きます。 $r = 1, 2, 3, 4$  で、 $\epsilon_r = +1$  ( $r = 1, 2$ ),  $\epsilon_r = -1$  ( $r = 3, 4$ ) です。 $\psi^r(x)$  は全て  $p_0 = E/c > 0$  です。

$\omega^r(\mathbf{p})$  をディラック方程式に入れれば

$$(i\partial_\mu \gamma^\mu - m)\omega^{1,2}(\mathbf{p}) \exp\left[-\frac{i}{\hbar} p_\mu x^\mu\right] = 0$$

$$(i\partial_\mu \gamma^\mu - m)\omega^{3,4}(\mathbf{p}) \exp\left[+\frac{i}{\hbar} p_\mu x^\mu\right] = 0$$

微分を実行すれば

$$(p_\mu \gamma^\mu - m)\omega^{1,2}(\mathbf{p}) = 0 \quad (p_0 > 0) \quad (1a)$$

$$(p_\mu \gamma^\mu + m)\omega^{3,4}(\mathbf{p}) = 0 \quad (p_0 > 0) \quad (1b)$$

このような方程式を満たします。見れば分かることですが、 $\omega^{1,2}(\mathbf{p})$  は通常のディラック方程式に従い、 $\omega^{3,4}(\mathbf{p})$  は  $p_\mu$  の符号を反転させたディラック方程式に従っています。 $p_\mu$  の符号が反転していることは、エネルギー  $E$  と運動量  $\mathbf{p}$  の符号が反転していることを意味します。つまり、 $\omega^{3,4}(\mathbf{p})$  は負のエネルギー  $-E$  と負の運動量  $-\mathbf{p}$  によって作られる方程式に従っていると言えます。というわけで、 $\psi^{1,2}(x)$  は  $E$  と  $\mathbf{p}$  を持った電子の解、 $\psi^{3,4}(x)$  は  $-E$  と  $-\mathbf{p}$  を持った電子の解となります。

このような解釈と空孔理論をあわせると、 $\psi^{3,4}(x)$  は反粒子を記述すると考えられます。そして、 $\psi^{3,4}(x)$  で  $p_0, \mathbf{p} > 0$  と考えれば、 $\psi^{3,4}(x)$  はエネルギー  $E$  と運動量  $\mathbf{p}$  の陽電子を記述していると解釈できます。粒子、反粒子の区別のために

$$\omega^{1,2}(\mathbf{p}) \exp\left[-\frac{i}{\hbar} p_\mu x^\mu\right] = u^{1,2}(\mathbf{p}) \exp\left[-\frac{i}{\hbar} p_\mu x^\mu\right]$$

$$\omega^{3,4}(\mathbf{p}) \exp\left[\frac{i}{\hbar} p_\mu x^\mu\right] = v^{1,2}(\mathbf{p}) \exp\left[\frac{i}{\hbar} p_\mu x^\mu\right]$$

として、 $u, v$  がよく使われます。

エネルギーと3次元運動量がどうなっているか知るために射影演算子を作ります。エネルギーと3次元運動量は4元運動量なので、まとめて

$$\Lambda_r = \frac{\epsilon_r p_\mu \gamma^\mu + mc}{2mc}$$

というのを定義します。これを  $\omega^r(\mathbf{p})$  に対して作用してみると

$$\Lambda_r \omega^r(\mathbf{p}) = \frac{\epsilon_r \gamma^\mu p_\mu + mc}{2mc} \omega^r(\mathbf{p}) \quad (2)$$

(1a) と (1b) は  $\epsilon_r$  で

$$(\not{p} - \epsilon_r mc) \omega^r(\mathbf{p}) = 0$$

と書いて、変形すれば

$$(\epsilon_r \not{p} - mc) \omega^r(\mathbf{p}) = 0$$

これを使うことで (2) は

$$\Lambda_r \omega^r(\mathbf{p}) = \frac{mc + mc}{2mc} \omega^r(\mathbf{p}) = \omega^r(\mathbf{p})$$

となります。これで何が起きたのかをはっきりさせるために、 $\Lambda_{3,4}$  とします。

$\omega^r$  の関係

$$\bar{\omega}^s(\mathbf{p}) \omega^r(\mathbf{p}) = \epsilon_s \delta_{ts}, \quad \sum_{r=3}^4 \omega^r(\mathbf{p}) \bar{\omega}^r(\mathbf{p}) = \frac{p_\mu \gamma^\mu - mc}{2mc}$$

を使うと

$$\begin{aligned} \Lambda_{3,4} \omega^r(\mathbf{p}) &= \frac{-\gamma^\mu p_\mu + mc}{2mc} \omega^r \quad (\Lambda_{3,4} = \frac{-\gamma^\mu p_\mu + mc}{2mc}) \\ &= - \sum_{s=3}^4 \omega^s \bar{\omega}^s \omega^r \\ &= - \sum_{s=3}^4 \omega^s \epsilon_s \delta_{rs} \\ &= \omega^r \quad (r = 3, 4) \end{aligned}$$

となります。 $s = 3, 4$  なので、 $\delta_{rs}, \delta_{r4}$  から  $r = 3, 4$  です。このことから、 $\Lambda_{3,4}$  は  $\omega^r$  から負エネルギー状態である  $\omega^{3,4}$  を取り出していることが分かります。 $\Lambda_{1,2}$  では正エネルギー状態  $\omega^{1,2}$  を取り出します。

というわけで、4元運動量の正負に対応して

$$\Lambda_\pm = \frac{\pm \gamma^\mu p_\mu + mc}{2mc}$$

と定義すれば、正負の状態に対する射影演算子として使えることがわかります。

量子力学でのスピン演算子は軸の方向を  $e$  として  $\sigma \cdot e/2$  で与えられます (固有値が  $\pm 1/2$ )。このため、

$$\frac{1 \pm \sigma \cdot e}{2}$$

とすれば、 $e$  の方向を向いているスピンの状態を取り出せます ( $\sigma \cdot e = +1$  ならプラスで1、 $\sigma \cdot e = -1$  ならマイナスで1)。なので、これがスピンに対する射影演算子です。これを拡張し

$$\frac{1 \pm \Sigma \cdot e}{2} \quad (\Sigma = \begin{pmatrix} \sigma & 0 \\ 0 & \sigma \end{pmatrix})$$

というのを作ります。

$e_3 = (0, 0, 1)$  方向を向いているとします。 $n_3$  を  $e_3$  の第三成分  $e_3^{(3)}$  とします ( $n_3 = e_3^{(3)} = 1$ )。そうすると、ディラック・パウリ表現を使えば

$$i\gamma_1\gamma_2 = \Sigma_3 = \begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & -1 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & -1 \end{pmatrix}$$

なので

$$\begin{aligned} \frac{1 + \Sigma_3 n_3}{2} &= \frac{1 + i\gamma_1\gamma_2 n_3}{2} \\ &= \frac{1 + \gamma_0\gamma_5\gamma^3 n_3}{2} \quad (\gamma^5 = \gamma_5 = i\gamma^0\gamma^1\gamma^2\gamma^3, \gamma^3\gamma_3 = 1) \\ &= \frac{1 + \gamma_5\gamma^3\gamma_0 n_3}{2} \\ &= \frac{1 + \gamma_5\gamma^3 n_3\gamma_0}{2} \\ &= \frac{1 + \gamma_5\gamma^\mu n_\mu\gamma_0}{2} \end{aligned}$$

最後の行で、 $n_\mu = (0, 0, 0, 1)$  として、 $(\gamma^0, \gamma^1, \gamma^2, \gamma^3) \cdot (0, 0, 0, 1) = \gamma^3\gamma_3$  としています。

$\gamma_5\gamma^\mu$  は「ガンマ行列～双線形～」で見たように軸性ベクトルとして変換されます。しかし、 $\gamma_0$  はそういう性質を持たないので、このままでは共変な形になっていません。

なので、単純に  $\gamma_0$  を外して

$$P(n_3) = \frac{1 + \gamma_5\gamma^\mu n_\mu}{2}$$

としてみます。これを作用させてみます。

静止している場合を使い、 $\omega^r(0)$  は

$$\omega^1(0) = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix}, \quad \omega^2(0) = \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix}, \quad \omega^3(0) = \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix}, \quad \omega^4(0) = \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix}$$

とします。これにを使えば

$$\begin{aligned}
 P(n_3)\omega^r(0) &= \frac{1 + \gamma_5 \gamma^\mu n_\mu}{2} \omega^r(0) \\
 &= \frac{1}{2}(1 + \gamma_5 \gamma^\mu n_\mu \gamma^0 \gamma^0) \omega^r(0) \\
 &= \frac{1}{2}(1 + \Sigma_3 \gamma^0) \omega^r(0)
 \end{aligned}$$

$\gamma^0$  は

$$\gamma^0 = \begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & -1 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & -1 \end{pmatrix}$$

なので、

$$\begin{aligned}
 P(n_3)\omega^1(0) &= \frac{1}{2}(1 + \Sigma_3 \gamma^0)\omega^1(0) = \frac{1}{2}(1 + \Sigma_3)\omega^1(0) = \omega^1(0) \\
 P(n_3)\omega^2(0) &= \frac{1}{2}(1 + \Sigma_3 \gamma^0)\omega^2(0) = \frac{1}{2}(1 + \Sigma_3)\omega^2(0) = 0 \\
 P(n_3)\omega^3(0) &= \frac{1}{2}(1 + \Sigma_3 \gamma^0)\omega^3(0) = \frac{1}{2}(1 - \Sigma_3)\omega^3(0) = 0 \\
 P(n_3)\omega^4(0) &= \frac{1}{2}(1 + \Sigma_3 \gamma^0)\omega^4(0) = \frac{1}{2}(1 - \Sigma_3)\omega^4(0) = \omega^4(0)
 \end{aligned}$$

$e_3$  の向きを反転させた

$$\bar{\Sigma}(-n_3) = \frac{1 - \gamma_5 \gamma^\mu n_\mu}{2}$$

でも、同様に行えば

$$\begin{aligned}
 P(-n_3)\omega^1(0) &= \frac{1}{2}(1 - \Sigma_3 \gamma^0)\omega^1(0) = \frac{1}{2}(1 - \Sigma_3)\omega^1(0) = 0 \\
 P(-n_3)\omega^2(0) &= \frac{1}{2}(1 - \Sigma_3)\omega^2(0) = \omega^2(0) \\
 P(-n_3)\omega^3(0) &= \frac{1}{2}(1 + \Sigma_3)\omega^3(0) = \omega^3(0) \\
 P(-n_3)\omega^4(0) &= \frac{1}{2}(1 + \Sigma_3)\omega^4(0) = 0
 \end{aligned}$$

$e_3$  の向きを反転させることは上向きが下向きになると言えて、 $\omega^1(0)$  を上向きとすれば、 $\omega^2(0)$  が下向きとなります。これは「ディラック方程式」でのヘリシティを使った場合と同じです。 $\omega^{3,4}(0)$  では、 $\omega^3(0)$  では下向き、 $\omega^4(0)$  では上向きです。しかし、 $\Sigma_3$  の符号は反転しています。 $\Sigma_3$  がスピンの固有値を与えると見れば、 $\omega^{1,2}$  のときから

$\omega^{3,4}$  はスピンの反転していると言えます。このことは、空孔理論による負エネルギーから正エネルギーへの励起において、スピンの方向も反転していることに対応します。

射影演算子  $P$  は共変になるように作ったので、ブーストによって静止していない状態にしても成立します。